

## 第 61 回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日 時 令和 5 年 4 月 10 日（月）午後 2 時～午後 4 時
- 3 場 所 川崎フロンティアビル 9 階 市民文化局会議室（テレビ会議システムを併用）
- 4 出席者
  - （1）委員 9 名 犬飼委員、佐藤（昌弘）委員  
（テレビ会議システムによる出席）秋山委員、垣内議長、川崎委員、  
佐藤（敦子）委員、関委員、永松委員、藤嶋委員
  - （2）事業担当者（市民文化局市民文化振興室） 蛭川部長、井上課長、植木係長
  - （3）事務局（市民文化局市民文化振興室）白井室長、土屋課長、笹川係長、畠山職員
- 5 議 事
  - （1）令和 4 年度文化アセスメントについて（アートガーデンかわさき特別展示室事業（川崎浮世絵ギャラリー））
  - （2）その他
- 6 報告事項
  - （1）今後の会議内容及びスケジュールについて
  - （2）新たなミュージアムに関する基本構想（案）について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0 名

### 【議事内容】

垣内議長 議題の（2）「新たなミュージアムに関する基本構想（案）について」事務局から説明していただく。

（事務局から、資料 4 「新たなミュージアムに関する基本構想（案）」について説明）

垣内議長 今まさにパブコメ中の基本構想の説明となります。報告事項について委員の先生方から質問あるいはご意見あればお願いします。

関委員 2020年3月に制定したPPPという管理運営について関心をもっています。令和元年の水害で、収蔵品に甚大な被害を発生しました。その要因のひとつに指定管理制度へ移行したとき

に、多くの学芸員が退職されたこともあるのではと思います。地下に収蔵品があることについては、辞められた学芸員の方々も含め、だいぶ気にしていながらも、人手不足もあって思い切った提案ができないまま、水害が発生してしまったという反省があります。退職した原因のひとつには、指定管理へ移行したことにより、学芸員に対する待遇が悪くなって、とても生活できないという事態があって辞めざるを得なかったと聞いています。

そのように聞いているため、新しい管理運営の川崎版PPPがどんな内容なのかと、合理的な管理運営として一番適しているのか、その内容を知りたい。

事業担当 水害の被害内容と学芸員の雇用状況との関連性の有無は、判断していないという状況です。指定管理者において、今回、水害にあった状況としては、確かに地下に収蔵物があつたということは理解しているところです。浸水にあった影響というのは、内水氾濫という想定しえなかった自然災害が起きたためであり、そのなかでも指定管理者は、十分対応して、市も協力している状況です。そのため、管理の仕方について、指定管理だったから水害にあったわけではないと理解していただければと思います。PPPプラットフォームについては、公共事業を実施する場合には、必ず検討することが義務づけられており、市としても適切な管理運営手法の検討を進めているなかで、民間活用を考えている。そのため、民間活用のなかでも、指定管理やPFI事業などの手法があるが、それを取捨選択していくのはこれからということでご理解いただければと思います。

関委員 平成30年度の文化アセスメントを実施した際に、事業者から管理運営上の人手が足りないと報告され、その点を指摘した報告が出されたはずですが。新しいPPPにおいては、そのようにならないよう機能ができるのかを知りたかった。振興会議で提言したように人材不足とならないような内容で、指定管理を検討していただきたいと思っています。

事業担当 適切な運営管理手法については、検討していきながら皆様方と情報共有していきます。

垣内議長 今の件について、市民ミュージアムを現在の場所に作ったときは、誰も等々力緑地が浸水してしまうことを全く想定していなかったため、当然のことながら施設を作り、非常に利便性が高いので地下に収蔵庫を作った。

しかし、気候変動が非常に激しく、なかなか行政的な手当が追いついていかなかった。市の方では、災害対策上なんらかの手当をしようとしていたということは聞いている。ただ、その手当ををする前に、想定を超えるような雨量があつたために、今回の水害が起きた。

いろいろな考え方や意見があるとは思いますが、指定管理者ではなく、従来から市民ミュージアムに勤めていた学芸員がいれば、内水氾濫が防げたかということ、それはなかなか難しいところである。指定管理者に対して様々な意見があることは承知しているが、この点についての批判には、少し無理があると外部から見ても思うところである。

本日報告のあつた市民ミュージアムの基本構想の中にも、人材育成がたくさん盛り込まれている。これは、人が多くいればいいというわけでもなく、しかるべき必要な人材をきちんと育てて、その人たちが市民ミュージアムの管理運営に携わって、様々な活動を展開する。しかも、効果的・効率的に展開するというのが、この基本構想の趣旨かと思う。

PPPについては、21世紀になってから政策評価について社会的要請が大きくなったことから

考えられるようになった仕組みである。特に政令指定都市のような大きな都市では、原則論として、最も効果的にサービスを提供するために、民間も含めて最も適切なところに運営させるということは必要なことであり、一般原則でもある。もし文化が特殊であり、その原則になじまないというのであれば、その特殊性を説明しなければならない。もちろん、文化や市民ミュージアムとしては、何が必要であると、はっきり明示されれば、市としても説明がつくようになるかもしれない。そのあたりについては、今から検討であり、先生方の意見も踏まえて検討していただけたらと思うので、今後についてのコメントがあればお願いしたい。

藤嶋委員 岡本太郎美術館の時は、周囲への環境に大きくダメージを与えるということで、すごい反対運動が起きたが、今回の生田緑地は大丈夫なのか。

事業担当 現在、生田緑地マネジメント会議と協議中であり、自然環境への影響は一定程度あると意見をいただいている。今後、自然環境への影響が軽減できるようなやり方を模索していく必要があると言われていている。

垣内議長 パブリックコメントを引き続きやっているところであるが、そういった点についての意見は多いのか。

事業担当 やはり、結構な数の意見があつて、自然団体の方からも注目度が高い事業になっている。

犬飼委員 現在、町田市立国際版画美術館の芹ヶ谷公園の問題がありますが、工芸美術館を建設する適地があるのに、斜面に建設して国際版画美術館と空中回廊で連結する構想があり、議会で決議されている。その結果、町田市立国際版画美術館に併設されている版画工房をなくして、版画美術館の中に集客を広げるための広場を作るという構想で進んでいる。

工芸美術館をつくるためには、芹ヶ谷公園の樹木を100本伐採することになり、周辺住民から反対運動が起こっている。そのため、新たなミュージアムに関する基本構想においては、芹ヶ谷公園に比べて生田緑地は広く、緑にそれほど影響なくできるかもしれないが、事前に住民との折衝をしなければならないと思う。

永松委員 資料には、SNS映えする写真のことが書いてあり、最近の美術館はそのような傾向にあると思っているが、それはすごく民間的な発想だと思う。若い人たちは、そういうところを大事にするが、市としては、そのような方針を持つと若い人たちがたくさん来る可能性はあるなかで、文化保護の一面を持って頂けたら嬉しい。

今後のスケジュールには、開始時期は見えているが、終了時期がわからないため、概ねの開館時期をイメージして、このプロジェクトが進んでいることが書けたらいいと思った。

事業担当 終了時期については、実際に向ヶ丘遊園跡地の小田急の開発があり、利害関係者との調整が多く、明記ができない状況です。小田急の温浴施設などの計画自体は、都市計画変更の手続きなどに掲載されており、令和5年に開業予定であったが、進んでいない状況です。

そのため、利害関係者との調整したうえで、新たなミュージアムのスケジュールができるため、

先行きが見通せず記載が難しい。

垣内議長 それでは、時間もありますので、次第に沿って、資料1、資料2について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から、資料1「文化アセスメント調査・評価シート(案)」、資料2「令和4年度文化アセスメント実施結果報告書(案)」について説明)

垣内議長 今回の会議では、資料1、資料2を概ね確定します。資料2の実施結果報告書は、資料1の調査・評価シートから引用するため、評価シートを確定した上で、実施結果報告書の総合評価と提言について意見をいただきたい。

川崎委員 11番「目的」について、川崎ならではの価値を生み出しのところはいいと思うが、市民はもとより国内外に向けてその魅力を発信することで、シビックプライドを高めると新たな賑わいを創出するという目的が妥当であったとして、達成としては、国内外に発信していると賑わいを創出しているところが、かなり疑問であって、この目標に対しての成果では、評価を2とするのは厳しいと思う。評価が1であると駄目であるということではなく、浮世絵ギャラリーに対し、この大きな目的を持たせるのかというところがあるため、目的が妥当であるかと議論の余地があると思う。

垣内議長 浮世絵ギャラリーは、小さなギャラリーで、アートガーデンの奥にあり、物理的に不利な環境にあると思われる。また、砂子の里資料館からの貸与は無償であり、借入作品の選択についてギャラリーが主導することは容易ではないかもしれないが、目的達成のために必要な作品選定ができるような仕組みも議論したほうがよいと思う。

藤嶋委員 18番「設定の妥当性」について、現状の展示スペースや運営方法では、入場者数、収支の設定が妥当ではなく現実的ではないと多く記載されている。設定が浮世絵コレクションをありきでの事業にみえる。それになにかをつける事業のように見える。例えば、浮世絵と西洋近代絵画のどちらを選ぶかと言われたら、浮世絵の江戸時代の近世の視覚世界というのは、それほどメジャーではなく、その辺は、市民も選んでいるはずなので、やはり、トーンを合わせて行くべきだと感じている。

垣内議長 浮世絵はそこまでメジャーではないという話もあったが、価値観が多様化する中、すべての芸術についてそれは言えることと思う。例えば、オペラだったら、最初は椿姫やカルメンなどの誰もが聴いたことのある楽曲のある公演から始めて、観客層を育てていくということもされている。だから、浮世絵も、まずはみんなが知っている広重などを見せて、おもしろいものであることを浸透させることから始め、ある程度浸透してきたところで、少し高度な行書隸書展につなげるといった戦略的マネジメントがあっても良いと思う。私が少し気になるのは、全体的なトーンとして、運営は今のままで良いが、赤字が出た場合に市が負担するというように読めてしまうところである。むしろ、浮世絵ギャラリーが色々な工夫を行って努力を行うことが大前提ではないだろうか。その

上で、美術館や博物館は展示だけでなく、調査等も必要であり、どんなに努力しても赤字が出てしまった際には、市民にとって必要な活動であるから、市が負担するといった説明が必要ではないだろうか。これらの点についても、ご意見をいただきたい。

佐藤敦子委員 これまで私が関わったアセスメント評価シートのなかで、今回のように評点2や1がこれほどついたものは見たことが無く、今回の評価は辛口ではある。それを踏まえて（実施報告書の最後にある「総合評価」が）見直しではなく、改善というのが妥当であるかは疑問である。先ほど垣内議長が言ったように、広報が足りないであるとか、具体的にこれをやれば改善するというのではなく、場所の厳しさやキャパシティの制約などもあるので、指定管理者が広報活動を焼き直したら、抜本的にいろんなことが変わるのかと正直疑問に思った。本件をアセスメントにした際、あそこには人が集まらないし、バスを乗りつけて学校訪問をさせるわけにもいかないと思った。ここ数ヶ月のインバウンドで外国の人達がものすごく増えており、日本好きの方の浮世絵に対する思い入れは日本人以上に強いものがあるため、インバウンドの人達を取り込むというところの重要性和現実味が、かなり増してきているのではないかと思う。広報のやり方で抜本的に変わるとは思えないが、市場環境が変わってきているので、改善程度でもよいのかもしれないが、この評価シートの内容だと（実施報告書の「総合評価」は）見直しなのではないかと思う。

垣内議長 貴重な地域の資源、砂子の里が持っているものを市民へサービスとして提供するためという目的に着目すれば、改善は必要だが、継続してもらいたいという点にはコンセンサスが得られると思う。ただ、このように文字にすると、目的が大きすぎて、それにこのギャラリーが応えられるかという、なかなか難しい。もう少し現実に沿って文言整理をしていただく必要がある。また、藤沢の事例を参考にしたと思うが、藤沢では入館料は無料である。アートガーデンは市民が使うところにあるが、浮世絵ギャラリーの入館料を500円としており、少しハードルは高い。いろんな方に様々な機会で見てもらうのであれば、シティプロモーションの一環として無料とするみたいな考え方もありえる施設と思われる。少なくとも、無料の範囲をもっと自由に増やすやり方もあると思う。浮世絵は国際的にも価格が上がってきており、海外でも好きな人は多い。もちろん、コストをかけて、英語のホームページを作れば、たくさんの方が海外から来るかと言ったら、それもなかなか難しいと思う。むしろ、来てもらった人にインスタなどで上げてもらうといった情報発信の可能性も追求してはどうか。レプリカの前では写真を撮れるが、展示室の中は撮れないという制約もあるので、マネジメントについては、もう少し工夫があったらよいと思う。いずれにしてもミュージアムのような存在だから、物販と入場料の収入で、すべてのコストをカバーできるという設定自体は非現実的なので、そこは強く言っていると思う。一方、そこに公的な資源を入れるのであれば、ギャラリーにも、それなりの努力が必要であると思う。

佐藤敦子委員 目的の見直し含めて、川崎市にとっての浮世絵という資源の戦略的な使い方としての位置づけで、あの場所で事業継続を前提とするのであれば、現状のセットアップの改善にとどまらず、見直しも含めての検討を振興会議として示唆するというのはいかがでしょうか。

関委員 もともとこれをアセスメント対象にする時期は、少し早いのではないかと思った。川崎と羽田との交通の便も含めて、外国の方に来てもらうということも考慮した開設であり、計画だった

と聞いています。それがコロナにより駄目になったこともあって、ちょっと時期尚早じゃないかと思う。しかしながら、行ってみると、なかなか楽しく見ることができたので、ぜひ色々な工夫をしながら、改善して続ける内容にできればいいと思う。浮世絵は、海外の近代美術にかなり影響しているの、その辺の関係を含めた事業を展開できれば、もう少し市民に親しみが持てるミュージアムになるのではないかと思う。

団体や事業者からツアーの申し込みがきているとあるが、実態はどうなっているのか。活用依頼が寄せられて実施されているとあるが、そういう実態を感じなかったの、学校の団体や事業者が浮世絵ギャラリーをたくさん活用したいなどの申し込みはどのくらい来ていたのか。

垣内議長 資料2の9ページのその他の取り組みであるが、回数や人数はどのくらいあったの。

事務局 回数については、手元に資料がないためすぐ出てこないが、街中を歩くJRとのイベント等で浮世絵ギャラリーがコースとして入ったという話と、高校生や中学生の美術部員の方たちへ開館前に観ることができるような形で工夫している。件数自体は、多くないと思うが、評価シートに入れる等の工夫をする。

垣内議長 コロナが落ち着いたばかりで、ようやく学校も行こうかなとかいう時期の頃だと思う。可能性は、色々あるという意味では一部書いてもよいが、実績として言えるのかはデータを見てみないと何とも言えない。

関委員 実際にギャラリーを見たグラフィックデザイナーの方から、川崎ってすごいもの持っており、絵のひとつひとつにパワーがあると言っていた。それを感じるような企画や映像などにして、市民に浮世絵の世界は奥深いとアピールできるともっと親しみが持てるのではないかとも言っており、そういうドラマを作るのもいいですねという話をしました。なので、もう少し色々工夫ができると思う。スペースの問題もあるが、もう少し広がりをもった川崎らしいギャラリーになると思う。

川崎委員 全体の話としていうと、改善ではなく見直しであるという書きぶりであった。ただ、我々は、施設そのものを廃止と言いたいわけではなく、計画が大きすぎるということを報告書に書けば、見直しの意図も伝わるかと思う。それを裏付けする評価シートの方は、「事業の目的」と「費用の効率性」の部分に1が多くあって、文化芸術性など市民の参加は、少し微妙なところはあるが、この辺を意義はあるが、この壮大な計画では無理とする。前回、かなり極端な話をしたが、採算を取るのであれば、あの部屋を10万円で貸すとかしないと難しいと思うが、そうではなく、財団や市も広く市民にという意識を持っているようなので、そこはお金を儲けようという気持ちは捨てて、文化、芸術をきちんと発信して、みなさんに触れてもらうということを明確に目的として、事業を展開することとし、この壮大な計画では見直しと言わないと改善できそうな感じがしてしまう。残念ながらインバウンドが帰ってきて、収支が劇的には改善しないだろう。改善ができたとしても、財団の方が言っていたが、混雑して大変となりかねないので、ゆっくり芸術に触れてもらうことを目的にするのであれば、計画、目的の方を見直しと言わないといけなと思う。

垣内議長 事業スキームの中には、目的もやり方も含まれているので、そこを抜本的に見直すときちゃんと書き込んでいただきたい。「事業の目的」は、目的が広すぎて、非現実的な前提が置かれており、あのスペースでやるのかということ、18番「設定の妥当性」は1ではないかとなる。達成度は、その割には頑張っており、20番「達成手段」としては一生懸命頑張っているから2となる感じである。一方、文化芸術性は、育成効果も少しずつではあるが上がってきており4となる。参加は、いまひとつではあるが、工夫の余地があり、来た人がみんな満足しており3となるが、でも周知は知られていないとなっていく、効果としては、波及効果はないわけではない。ここは少し微妙であるが、施設の利用管理は、オフィス系も微妙であり、ワーキングスペースなどの他の利用価値があるのかはどうかとして、浮世絵ギャラリーとしては、それなりにいい場所を手に入れ、連携も始まっている。だが、このスキームでの費用の効率化は困難なため、1とする。このような感じではどうだろうか。

秋山委員 すでに意見が出尽くしていると思うが、要するに簡単に採算性で割り切れる話ではないという認識が我々委員に共通していると思う。よって、この報告書を取りまとめるときに、もう少しその辺りを強調して、絵画鑑賞はライブコンサートのように立ち見客が出るほどの人が入ればよいという性格のものではないということアピールしてもよいと思う。「効率・効果」の費用の効率化について、ここの文章が非常によくできているので、全体としてはこの辺りをもう少し強調してもよいと思った。それから、29番「費用の効率化」について、だいたい皆様の共通認識であるようだが、2つ目にあるように、鑑賞が困難になるほどの混雑や満足度の低下に繋がるほど採算性を求めるのはどうかと考えるところは、もう少し表現を強めて、「採算を求めるだけではなく、鑑賞のクオリティに優先度を置く」という考え方もあり得るのではないかと。書き方は、いろいろとあるだろうが、この浮世絵の展示が採算性だけで低い評価になるのは可哀想だと思えるし、非常によい企画をしているので、杓子定規に評点を2や1とするのではなくて、この事業の特性というものを念頭に置いた上での評価であってもよいと思う。29番「費用の効率化」においても、評点1というのは厳しすぎるので、2でもよいのかなと思う。最後に、29番「費用の効率化」の3つ目の現在の価格設定と多くの市民、特に経済的、社会的に不利な人たちへの配慮は、入場料なども指しているのかもしれないが、この概念は23番「参加」のカテゴリーに入ってくるような気がするが、あとはまとめ方の問題なので、事務局にお任せしたい。

犬飼委員 皆さんも言っているとおり、最初の設定がかなり間違っていたと思う。インバウンドの人たちをこの人数になるように取り入れるのであれば、羽田空港に着く前に浮世絵ギャラリーというものがあることを宣伝のフィルムで流すようなことでもしない限り、これだけの目標設定している外国人が来るのは困難であって、これからも困難であると思う。ただし、外国は、ボストンの美術館やシカゴの美術館でもそうであるが、非常に浮世絵は人気があるため、この展示を続けてみて、インスタグラムなどで宣伝をすれば、それを見た外国の方がきたら感心すると思う。また、本当に質のいいものであって、学芸員の方の努力も素晴らしいと思うので、この質を落とさずに、ずっと続けていくことが川崎市のためにもいいと思う。また、若い人たちが大好きな妖怪の浮世絵などの展示をすると入場者も増えると思うので、そのような企画も入れてみたらいい。入場料のことに限っては、お金を儲けるという考え方は無理だと思うので、例えば満足した人には、出口で寄附していくというような設定をしてもいいのではないかとと思う。

永松委員 皆さんが言うように、目標が妥当性に欠けるという意見には賛成である。以前、砂子の里から浮世絵を借りている以上は、かなり制約を受けるところがあると聞いており、結構自由度が低めなので、やはり目標の見直し必要かと思う。砂子の里資料館については、ウェブサイトで建物の建替えにより閉館して、川崎市民ギャラリーに資料提供とあるが、建替後は、川崎市へ浮世絵を貸さなくなる可能性はあるのか。

事務局 砂子の里資料館とは20年間の協定を結んでおり、その間は貸していただける。それ以降については、その時の状況によって、砂子の里と協議をして決まっていくと思われ、建て替えした際は、そちらに展示という話もあるが、今のところ、川崎市で20年間は活用できると認識している。

事務局 実際は、砂子の里資料館自体では運営が厳しくなったため、川崎市に無償貸与して、運営できないかということであった。川崎市としても歴史的に価値があるので、お借りして運営する形となったため、砂子の里資料館が復活することは恐らくないと思われる。

永松委員 垣内議長が言っていた砂子の里資料館で見たような、いい絵があまり出でいなかったと話があったので、砂子の里資料館に貸してくださいと言えるようになれば、どのような作品を展示するかという選択肢が広がるという意味でもいいと思いました。

垣内議長 砂子の里資料館があったところは、今マンションが建てられている。新たに土地を取得して、ミュージアムを作るのは、とてもお金がかかることだし、固定資産税など減免になったとしても、ランニングコストがカバーできない状況であるため、おそらくこのままいくだろうと思う。浮世絵は、非常に劣化しやすいものであるため、コレクターとしては、いいものほど貸したくないというのは一般的な心情である。また、保険料やセキュリティコストも必要になる。他に貸すと通常は多少なりとも使用料、貸出料が得られるので、なかなかそこは難しい部分かと思う。しかし、以前は砂子の里資料館では無料で開館していたので、様々なものを見てもらいたいという気持ちはあると思うし、そこは同じベクトルなため、学芸員がどういう企画を協働でされるのかわからないが、マネジメントの余地があると思う。

佐藤昌弘委員 壮大な目的になったそもそもの原因というのは、これを立ち上げた時期がオリンピックをこれから招くということがあったため、このように大きくなってしまった。それが、全部計算が外れてしまって、オリンピックは1年後になり、コロナ禍にもなってしまったため、当初予定していたスケールがどんどん狭くなっていくなかで、最初にバブリーな発想があったため、それが結局残ってしまったという経緯を正直に認めて、そういったことがあった故に現実をきちんと踏まえ、この現状を見据え視野を縮小してクオリティの方を見つめ直していくとして、そのために何ができるかということにすれば良いのではないかと感じた。

垣内議長 オリンピックが1年後になったことや人流が止まったままであったとか様々なことがあったので、必要に応じて見直しもかけていくはずなので、当面は、この事業スキームをここでいったんリセットすると報告書にまとめていくということではどうか。18番の評定が1という意見と2

という意見がある。また、29番「費用の効率化」も1になっているが、ここは2にするかという意見もあるが、ここを取りまとめるため、もう少しご意見いただけないか。

川崎委員 変に忖度せずに1にした方が、明確にメッセージが伝わるかと思う。特に18番は、最初と最後のところは1にしてしまって、先ほど佐藤昌弘委員からあったようにバブリーな計画だったということで、実は市民ミュージアムもできた当初はバブルで維持管理がすごくしにくいなどあったため、川崎市の文化芸術政策は、バブルに振り回されずに、少し腰を据えて文化芸術振興に努めるようにメッセージをつけるといいと思う。

藤嶋委員 先ほど垣内議長から藤沢市の話があったが、常設展であってほとんど無料で見られる。これから浮世絵とかのある部分の美術品というのは、自分のところでコレクションをたくさん持っており、それを修復、ワークショップもでき、常設的に500円とか取るのではない。時々、事業として展開してもよいと思うが、これからそのようにもっていくという方向、イメージを持っていないと言葉だけになってしまう可能性がある。やはり事業で利益をあげなくてはならないとすると、そのしわ寄せ、歪みがこの文章の矛盾にすごく出ているのではないかと思った。

垣内議長 この感想をどのようにまとめるかは事務局にお任せする。18番と29番は、メッセージをはっきりさせるために1でよいと思う。2となるようなイメージは文章の中に入れるとして、数字はきっちり出したほうがよいかと思うので、ここは1でよいかと思う。文章は、事務局に工夫していただくということで、仮でストーリーも決まったかと思う。

佐藤敦子委員 24番の「満足度」は3になっているが、先ほどの委員のみなさまが賛同された意図からすると、アンケートでは96%が良い以上だったと考えると4にしていいたいと思う。この中の3番目の来館されていない方が多くいる現状があり、「周知広報などの工夫が必要である」は、25番の「周知度」に移動したほうがよいのではないかと思う。

垣内議長 そのように修正するというのでよいか。事務局の方で評価シートと報告書に今の意見を反映して、メールで後ほど送って、全委員に確認したうえで、私と川崎副委員長で最終確認することで確定とする。